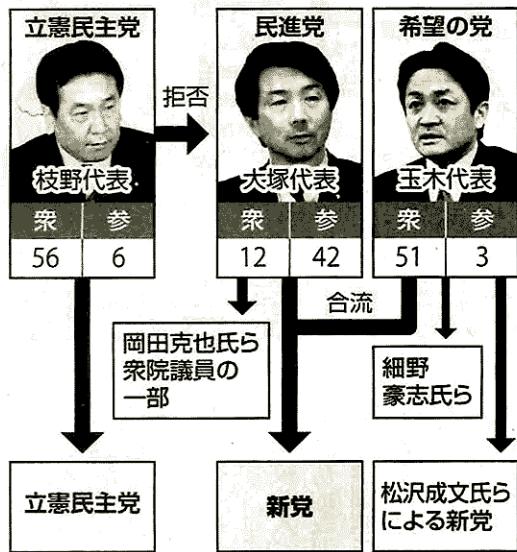


民進・希望の合流で、民進系勢力は
更に細分化する可能性がある



民進・希望党首会談

勢力再結集狙う

民進党と希望の党が9日、新党結成に向けた協議に入ったのは、来年夏の参院選に向け、民進出身者の再結集を図る狙いからだ。ただ、両党は分裂含みであることに加え、野党第1党の立憲民主党は新党構想への参加を拒否しており、勢力は限定的となりそうだ。民進系3党は、保守系の民進・希望と、リベラル系の立民に二分されることになる。△本文記事2面

「政権を担える党を作る。できるだけ多くの仲間をまとめていきたい」
希望の玉木代表は9日夜、国会内で民進の大塚代表との党首会談後、記者会見でこう強調した。党首会談では、できるだけ早期の新党発足を目指すことで一致した。両執行部は、4月中旬に新党結成で合意し、5月上旬に結党大会を開く方向で調整している。

立憲民主党の枝野代表は、衆院選で立民、希望も含めた3党に分裂した。分裂選挙を回避したい連合は野党再編を強く要求していた。この日、党首会談に先立つて行われた希望の両院議員懇談会でも、玉木氏は党挙ができる態勢をどう構築するか考えないと理解を求めた。希望の



4月下旬にも分党手続きを終えた後、玉木氏らが民進と分党に向けて協議中だ。希望でも、長島昭久政調バーの松沢成文参院議員らと分党に向けた協議が進む。新党構想に賛成する意見が多数を占めた。希望では、玉木氏ら執行部が結党メンバーに合流、党名を変更した上で、新党に生まれ変わるシナリオを描いている。

ただ、新党に向けては両党とも異論を抱え、分裂含みの様相だ。民進党籍を持つ岡田克也・元代表らベテラン勢の多くは立民との連携を重視する立場から、新党参加に慎重だ。無所属となり、立民との連携を模索する案も浮上している。

希望でも、長島昭久政調会長が9日、記者団に「選挙互助会だ」と新党構想を批判した。細野豪志衆院議員はすでに新党への不参加を表明、大串博志衆院議員も「立民も含めた体制をつくるべきだ」と主張し、岡田氏と行動を共にすることを検討している。